

## 近年の研究紹介

岡本源太 准教授 (美学) 2014.10.1



『ジョルダノ・ブルーノの哲学——生の多様性へ』(月曜社、2012年、新プラトン主義協会賞) 『『明るい部屋』の秘密——ロラン・バルトと写真の彼方へ』(共著、青弓社、2008年) ジョルジョ・アガンベン『事物のしるし——方法について』(共訳、筑摩書房、2011年)

専門は美学。感性的にして社会的な紐帯としての「想像力」「感情」「イメージ」「装飾」などの理論・実践・所産を、ルネサンス以来のヨーロッパの哲学と芸術と遡って考察しながら、その今日的な展開を、現代思想や現代芸術を手がかりに研究しています。

現在はとくに、「世界の複数性」がもたらす美学＝倫理的な帰結に関心をもち、その系譜学的調査として、ジョルダノ・ブルーノの哲学の反響と残存を、マラン・メルセンヌやジョン・トーランドからアビ・ヴァールブルクやジェイムズ・ジョイスやアンドレ・ブルトンにまであとづけることを試んでいます。

▶芸術学研究室ウェブサイト <http://art-okadai.tumblr.com/>

### 受験生へのメッセージ

お薦めの書物を紹介します。ぜひ挑戦を。ダニエル・アラス『モナリザの秘密』(白水社、2007年)、多木浩二『眼の隠喩』(ちくま学芸文庫、2008年)、ユベール・ダミッシュ『パリの審判』(ありな書房、1998年)。